

二〇一九年度 桐朋女子中学校入学試験 (B入試)

筆記試験 (国語)

受験番号

氏名

【注意】

- 一、問題冊子が配られても、開いてはいけません。
- 二、問題冊子は1ページから14ページまであります。
- 三、「はじめなさい」と言われたら、まず、問題冊子の表紙と解答用紙二枚に、それぞれ受験番号と氏名を書きなさい。
- 四、答えは、すべて解答用紙に書きなさい。
- 五、問題冊子に書きこみをしてはかまいません。
- 六、「やめなさい」と言われたら、すぐに筆記用具をおき、解答用紙も問題冊子も表を上にして、机の上におきなさい。
- 七、試験時間は四十五分です。

一、次の①～⑩の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。送りがなが必要な場合は送りがなもつけなさい。また⑪～⑮の——線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- | | | | |
|---|----------------------|---|---------------------------------|
| ① | 日本のすぐれた <u>ギジュツ</u> | ② | 友人と言葉を <u>カ</u> わす |
| ③ | <u>ヒョウバン</u> のいい店 | ④ | <u>オウフク</u> のきつぷを <u>買</u> う |
| ⑤ | 新薬が <u>シヨウニン</u> された | ⑥ | さらに <u>ケントウ</u> する必要がある |
| ⑦ | <u>カソウ</u> して行列に参加する | ⑧ | 親に <u>フタン</u> をかける |
| ⑨ | 申し出を <u>ジタイ</u> する | ⑩ | ガラスの <u>ハヘン</u> で <u>け</u> がをする |
| ⑪ | 新しい <u>門出</u> を祝う | ⑫ | まるで <u>鋼</u> の <u>よ</u> うな体だ |
| ⑬ | <u>純白</u> のドレスを着る | ⑭ | 子どもの <u>健</u> やかな成長を願う |
| ⑮ | くわしい説明を <u>省</u> く | | |

二、次の(1)(2)の問いに答えなさい。

- (1) ①～⑤の三つの漢字に共通する部首をつけると別の漢字ができます。その共通する部首の名前をひらがなで答えなさい。

《例》工・氏・内 ↓ いとへん (紅・紙・納)

- | | | | | | |
|---|-------|---|-------|---|-------|
| ① | 央・化・早 | ② | 毎・可・皮 | ③ | 反・本・寸 |
| ④ | 十・義・舌 | ⑤ | オ・各・耳 | | |

(2) 次の①～⑤の文の（ ）に入る適切な言葉を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ただし、同じ言葉は一度しか使えません。

- ① オリンピックの開催を（ ）宣言する。
- ② あんなによい天気だったのに（ ）雨が降り出した。
- ③ 野生動物がどのような反応をするのか（ ）観察して記録しておく。
- ④ 約束の時間になっても彼女は姿を見せず（ ）時間を費やした。
- ⑤ 年老いた飼い犬を少女が（ ）看病する。
- ア つぶさに イ いっこうに ウ いたずらに エ けなげに
- オ にわかに カ おごそかに

三、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。字数制限のある問いに答える場合「、」や「。」「も一字と数えます。

春の田植えで植えられたあと、イネは水田で育てられます。畑で栽培される作物は、水の中で育てられることはありません。「なぜ、イネは、水の中で育てられるのか」という「ふしぎ」が興味深く抱かれます。イネには、水の中で育てられると、主に、四つの「ひみつ」の恩恵があります。

一つ目は、水には、土に比べて温まりにくく、いったん温まると冷めにくいという性質があることです。【A】、水田で育てば、イネは夜も温かさが保たれた中にいられます。暑い地域が原産地と考えられるイネにとって、これは望ましい環境です。

二つ目は、水中で育つイネは、水の不足に悩む必要がないことです。ふつうの土壌に育つ植物たち

は、常に水不足に悩んでいます。そのため、私たちは、栽培植物には「水やり」をします。栽培植物に水を与えないでいると、すぐに枯れてしまいます。

「B」、自然の中で、栽培されずに生きている雑草は、「水やり」をされなくても育っています。ですから、「ふつうの土壌に育つ植物たちは、ほんとうに、水の不足に悩んでいるのか」との疑問が生じます。これは、容易に確かめることができます。

雑草が育っている野原などで、日当たりのよい場所を区切り、毎日、一つの区画だけに水やりをします。「C」、その区画に育つ雑草は、水をもらえない区画の雑草と比べて、成長が確実によくなります。自然の中の雑草は、成長するために、水を欲しがっていることがわかります。

三つ目は、水の中には、多くの養分が豊富に含まれていることです。水田には、水が流れ込んできます。その途上で、水には養分が溶け込んでいます。そのため、水田で育つイネは、流れ込んでくる水の十分な養分を吸収することができます。

「D」、水の中は、イネにとって、たいへん恵まれた環境なのです。水の中で育てば、イネには主に三つもの「ひみつ」の恩恵があります。これで十分かもしれません、これだけではありません。水田で栽培するという方法には、四つ目のものすごい「ひみつ」の恩恵が隠されています。 「連作」という語があります。これは、同じ場所に、同じ種類の作物を二年以上連続して栽培することです。多くの植物は、連作されることを嫌がり、生育は悪く、病気にかかることが多くなるからです。

連作した場合、うまく収穫できるまでに植物が成長したとしても、収穫量は前年に比べて少なくなります。これらは、「連作障害」といわれる現象です。連作障害の原因として、主に三つが考えられます。

一つ目は、病原菌や害虫によるものです。毎年、同じ場所で同じ作物を栽培していると、その種類の植物に感染する病原菌や害虫がそのあたりに集まってきました。そのため、連作される植物が、病気になるやすくなったり、害虫の被害を受けたりします。

二つ目は、植物の排泄物によるものです。植物たちは、からだの中で不要になった物質を、根から排泄物として土壤に放出していることがあります。連作すると、それらが土壤に蓄積してきます。すると、植物の成長に害を与えはじめます。

三つ目は、土壤から同じ養分が吸収されるために、特定の養分が少なくなることによるものです。「三大肥料」といわれる窒素、リン酸、カリウムの他に、カルシウム、マグネシウム、鉄、硫黄などが植物の成長には必要です。

これら三つの連作障害の原因は、水田で栽培されることで除去されます。水が流れ込んで出ていくことで、病原菌や排泄物が流し出されたり、養分が補給されたりするからです。水田で育てば、こんなにすごい恩恵があるのですから、他の植物たちも「水の中で育ちたい」と思うと考えられます。でも、水の中で育つためには、そのための特別のしくみをもたなければなりません。「どのようなしくみなのか」との疑問が生まれます。そのしくみをもつ代表は、レンコンです。レンコンは、泥水の中で育っています。呼吸をするために穴をもっています。あの穴に、地上部の葉っぱから空気が送られているのです。

実は、イネもレンコンとまったく同じしくみをもっています。イネの根には、顕微鏡で見なければなりません。レンコンと同じように小さな穴が開いており、隙間があります。正確には、イネは根の中に隙間をつくる能力をもっているのです。

というのは、イネは、水田では、その能力を発揮して、根の中に隙間をつくります。しかし、同じ

イネを水田でなく畑で育てると、その根には、水田で育つイネの根にできるような大きな隙間はつくられません。必要がないからです。イネは、置かれた環境に合わせて、生き方を変える能力をもっているのです。

しかし、水がいっぱい満ちている水田で育っていると、困ったこともあります。イネは、水を探して求める必要がないので、水を吸うための根を強く張りめぐらせません。そのため、水田で栽培されているイネの根の成長は、貧弱になります。

根には、水が不足すると水を求めて根を張りめぐらせるといって、ハングリー精神といえるような性質があります。ですから、田植えのあと、水をいっぱい与えられて、ハングリー精神を刺激されずに育ったイネの根は貧弱なのです。

もしそのままだと、秋に実る、垂れ下がるほどの重い穂を支えることができず、イネは、倒れてしまうでしょう。イネは倒れると、実りも悪く、収穫もしにくくなります。そのようになると、栽培する人たちは困ります。

そこで、イネの根を強くたくましくするために、イネに試練が課せられます。夏の水田をご覧ください。田んぼに張られていた水は、抜かれていきます。水田の水が抜かれるだけでなく、田んぼの土壌は乾燥させられています。

ひどい場合には、乾燥した土壌の表面にひび割れがおこっています。イネは水田で育つことがよく知られているので、この様子を見ると、「イネに水もやらずに、ほったらかしにしている」と勘違いをされることもあります。「ひどいことをする」と腹を立てる人がいるかもしれませぬ。

でも、それはとんでもない誤解です。水田の水を抜き、田んぼの土壌を乾燥させるのは、水が不足すると水を求めて根を張りめぐらせるといって、イネのハングリー精神を刺激しているのです。そうし

てこそ、イネは、秋に垂れ下がる重いお米を支えられるほどに根を張り、強いからだになることができます。

土壌の表面のひび割れも、無駄にはなっていません。ひび割れて土に隙間ができることで、この隙間から、地中の根に酸素が与えられます。それは、根が活発に伸びるのに役に立つのです。こうして、イネは、秋の実りを迎えるのです。

イネの栽培におけるこの過程は、「中干し」とよばれます。この過程を経てこそ、秋に垂れ下がるほどの重いお米を支えるからだができあがるのです。ですから、中干しは、イネの栽培の大切な一つの過程なのです。

(田中修『植物のひみつ』中公新書)

問い一、本文中の空らん「 」AとDに入る言葉として適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ言葉は一度しか使えません。

ア このように イ しかし ウ すると エ やがて オ ですから

問い二、——線部①「イネには主に三つもの『ひみつ』の恩恵」とありますが、水田で育つイネが受ける恩恵を三つ答えなさい。

問い三、——線部②「連作障害」について、

- (1) 「連作」とは何か、書かれている一文を本文中から探し、はじめの五字を答えなさい。
- (2) 「連作障害」とはどのような現象のことをさしますか。五十字以内で答えなさい。
- (3) イネが水田で育つことにより「連作障害」を受けなくなる理由が書かれている一文を本文中から探し、はじめの五字を答えなさい。

問い四、——線部③「置かれた環境に合わせて、生き方を変える能力」について、

(1) イネが水の中で育つと、どのような能力が発達しますか。本文中から十五字以内でぬき出して答えなさい。

(2) (1)の能力によって、水田で育つイネは何ができるようになりますか。二字で答えなさい。

問い五、——線部④「ハングリー精神」とありますが、ここで使われている「ハングリー精神」の意味として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア よりよい状況をめざす気持ち

イ 何とかして逆境をぬけ出そうとする気持ち

ウ やる気に満ちあふれている気持ち

エ 新しいことに挑戦しようとする気持ち

問い六、次の文章は本文中のどこに入れるのが適切ですか。入れるのにふさわしい場所を探し、直後の文のはじめの五字を答えなさい。

これらは、肥料として与えられる場合が多いのです。しかし、これ以外に、モリブデン、マンガン、ホウ素、亜鉛、銅などが、ごく微量ですが、植物の成長に必要です。必要な量はそれぞれの植物によって異なりますが、連作すると、ある特定の養分が不足することが考えられます。

問い七、この文章の前半では、イネが水の中で育てられることによる利点について書かれています。

後半では、イネが水の中で育てられることによる困った点と、それを乗りこえるために人間が行っている工夫について書かれています。秋にイネが良く実るように、人々はイネのどのような性質をいかし、どのような栽培の工夫を行っていますか。六十字以内で答えなさい。

四、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。字数制限のある問いに答える場合「、」や「。」「も一字と数えます。

今のところ僕の手元にある、かわいそうなことリスト、のトップに挙げられているのはシロナガスクジラだ。その子とは社会科見学の時に行った自然史博物館で出会った。地面には置き場所がないから、まあ許してくれたまえ、とでもいう感じで天井から吊るされ、宙に浮いていた。しかも全身、骨だった。

「シロナガスクジラは地球上で最も大きな動物です。過去に絶滅したすべての動物を合わせても一番です。ここに展示している骨格標本は体長三十メートル、体重は百七十トンあります。食べ物はオキアミです。ニューファンドランド島の海岸に打ち上げられているところを発見されました」

博物館の人が説明してくれている間中ずっと、クラスの皆は「でか」「でかすぎ」「ありえない」とざわざわお喋りし、先生がいくら注意しても聞かなかった。

僕は黙って骨を見上げ、心の中でつぶやいた。

「もう分かったよ。それ以上言うな。この子だって自分が ことくらい、よく分かってるよ」
だから本来ならばこの言葉を使いたくはないのだが、確かにシロナガスクジラは、大きかった。他に表現の仕様が思いつかなかった。

骨はちょうどいい具合に焼けたクッキーのような色をしていた。長持ちさせるために薬でも塗ってあるのか、時間が経てば自然とそうなるものなのか、表面は滑らかで、てかてかして見えた。体長の四分の一くらいを占める顎は、上下の骨が合わさって緩やかなカーブを描き、その付け根にある胸びれは人間の手とそっくりの形をし、あとは背骨がどこまでも長々と続くばかりだった。背骨を構成す

る骨たちは皆同じ形を持ちながら、先頭から最後尾まで大きさが少しずつ小さくなっていた。何もかもすべてが左右対称たいしょうだった。大きすぎるせいで隅すみの方には規則が行き届いていない、などといういい加減なことにはなっていないかった。^①どの骨もお利口に自分の居場所を守っていた。

真下に立ち、どんなに目を見開いても、彼（僕は勝手に男の子だと思込込んでいる。どこの骨でそのところを見分けるのか、博物館の人は教えてくれなかった）のすべてを瞳ひとみに映すのは不可能だった。頭に焦点しょうてんを合わせれば背骨が途切れ、尾まで網羅もうらしようとすれば顎あごの先が視界から消えた。月でさえ丸ごと目に収まるのに、この子のははみ出してしまふのだった。

体長は十一階建てのビルに相当するとか、舌だけで象一頭分の重さがあるとか、博物館の人は相変わらず彼の巨大さを強調する話ばかりしていたが、月より大きいという自分の発見の方に僕は心奪うばわられていた。^③そんな体を持って生まれる人生がどんなものなのか、僕には想像もできなかった。大勢の友だちと一緒にわいわい楽しんだり、逆に岩陰いわかげに隠かくれてのんびり静かな時を過ごしたりする自由は与えられていない。これほどの存在感を持ちながら、小さな目の魚にとってはただの闇やみでしかないという矛盾むじゆんを突きつけられている。自分の尾なのにそこは異国の地のように遠く、たとえ友だちになりた
いとと思った誰かがそこを舐なめて合図を送ってくれたとしても、返事が届くのは待ちくたびれて皆が立ち去ったあとだ。本当ならセイウチでもシャチでも一発でやつつけられるのに、遠慮えんりよして小さなオキアミしか食べない。自分で自分の体全体を見ようとしても自らの大きさに邪魔じゃまされ、結局、自分がどんな生きものなのか知らないまま一生を終える。象やビルと比べられ、何かにつけ大きいの一言でくられ、^I挙句の果てには骨をさらされている。

^{II}もっと僕をいたたまれない気持ちにさせたのは、実物と同じ大きさで作られた心臓の模型だった。ゴム製のそれはくすんだ赤色をし、表面に凹凸おうとつがあり、言うまでもなく十分に大きかった。動脈と静脈

人はが悠々すり抜けられるくらいの太さがあった。クラスメイトたちはピノキオにでもなった気分で心臓によじ登り、万歳をしたり腹ばいになったりして次々血管を滑り降りていった。僕は彼の心臓を遊び道具にすることなどとてもできず、尾びれの最後の骨の下にただ黙って立っていた。僕に気づいて声を掛けてくる友だちは一人もいなかった。

皆が潜り込むと、柔らかいゴムがもごもごして、本当に心臓が動いているように見えた。ニューフアンドランド島の海岸に打ち上げられ、人々から無遠慮に写真を撮られたり棒で突かれたりしながら、それでも弱ってゆく体でどうか最後の鼓動を刻もうとしていく心臓だった。

そのあと何を見学したのか、一つも覚えていない。本当はシロナガスクジラのそばにずっといたかったのだが、そんな勝手が許されるはずもなく、先生に促されるまま列の最後にくっついて歩いた。でも心の中はあの子で一杯だった。目には入りきらないけれど、心の中には顎から尾まで全部が収まった。そのうえ吊るされた骨ではなく、海にいた時と同じ、肉も鰭も噴気孔もついた本当の姿に戻っていた。

地図も持たずに君は、尾びれを振り上げ、背骨をしならせ、僕の中を泳いでゆく。きっと賢い君だけに見分けられる印があるのだろう。ちっとも迷ったりしない。小さな魚たちを驚かせないように、動きはあくまでもゆったりしている。海流が君のすべすべした体を包んでいる。他の誰も真似できない雄大な移動が為されているとはとても信じられないくらいに、あたりは静けさで満たされている。

もし神様が「順番に並んで」と号令をかけたなら、一番に返事をして先頭に立たなければならぬのは君だ。勇氣あるものにしか務まらない役目だ。絶滅した動物たちを動員しても尚、君の代わりになれるものはいない。全世界を従え、月にも優る尊さを内に秘め、最も強い風を受けながら、たった一人耐えている闘士。それが君なんだ。

かわいそうなことリストを記録するためのノートはお兄ちゃんにもらった。元々はお兄ちゃんが野球のスコアをつけていたノートだった。去年の秋、チームが地区大会で優勝した時、ご褒美に正式なスコアブックをパパからプレゼントされ、いらなくなったお古を僕にくれたのだ。だから最初の方のページには、打点3とか左二塁打とか捕エラーとか、わけの分からないことが書いてある。そのところは飛ばして、そのあとのまっさらなページからがいよいよ僕のノート、ということになる。

これは誰にも見せまいと決めている。病気で長い間入院しているおばあちゃんに「A」頼まれたいとしても、「B」心を鬼にして断るだろう。「C」ママの目に触れたりすれば大変なことになるから、テストや宿題のプリントやドリルを仕舞っている机の引き出しの、一番奥に隠している。いつだったか奥に突っ込みすぎて引き出しのどこかに引っ掛かり、表紙が折れ曲がってしまった。ただ、油性ペンで精一杯丁寧に書いたタイトル「かわいそうなこと」が歪み、本当にかわいそうな雰囲気醸し出す結果になったのは、ノートのためには「D」好都合だったかもしれない。

正直に告白すれば、気持をありのままに記すのはとても難しい。自然史博物館から帰って来た日も、すぐにノートを開き、シロナガスクジラについて書くこととしたのに、いざ鉛筆を手にしてみると、どこからどう始めていいのか混乱するばかりだった。④心の中でも間違はなくシロナガスクジラは泳いでいる。海面に透ける流線型の影も見え、海流を震わせる心臓の鼓動も聴こえている。もちろん骨一個一個の形までも再現できる。なのに言葉は浮かんでこない。

僕と机の上のノート。見た感じではさほど離れてはいない。手を伸ばせばすぐに触れられる。けれどいざ心の中身をページに移動させようとすると、⑤途端に果てしもない空白が現れる。それが不思議でたまらない。

僕は鉛筆を握りしめ、空白をじっと見つめ、かわいそうな気持があふれそうになるのを感じつつ、
どうか二言三言、書きつける。的確な言葉を見つけたというのではなく、苦し紛れに吐き出したと
いう感じた。そういう言葉たちは四球、代打、三振、と同じくらい頼りなく、たどたどしい。

かわいそうなことは、もっと正確な言葉で記録されるべきだ、そうでなければ本当の慰めになどな
らない、とよく分かっている。ノートを広げるたび、僕は申し訳なくてたまらなくなる。シロナガス
クジラの心臓で遊んでいた子より、自分の方がずっと残酷なのではないか、という恐れにさいなまれ
る。

鉛筆が止まったあとも、すぐにノートを閉じる気になれず、いつまでもページの白いところを見つ
めながら、リスト入りした彼らについてあれこれ思いを巡らせる。世界中が君を馬鹿にしたって、僕
だけは味方だと、空白に向かって語り掛ける。⑥ そうやって僕なりに罪滅ぼしをする。

(小川洋子『口笛の上手な白雪姫』幻冬舎)

* 網羅 ———— 関係のあるものを残らず集め収めること。

問い一、本文中の に入る三字の言葉を本文中から探し、答えなさい。

問い二、 線部Ⅰ「挙句の果てには」Ⅱ「いたたまれない気持」Ⅲ「さいなまれる」の意味とし
て最も適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

Ⅰ 「挙句の果てには」

- | | | |
|----------|---------|-------|
| ア | イ | ウ |
| 最初から最後まで | 最後の最後には | 最後によく |

II 「いたたまれない気持ち」

ア	いごちの悪い気持ち
イ	あれこれ悩み悲しむ気持ち
ウ	心から深く同情する気持ち

III 「さいなまれる」

ア	悩まされる
イ	追い込まれる
ウ	気づかされる

問い三、——線部①「どの骨もお利口に自分の居場所を守っていた」とありますが、どのような意味ですか。最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 背骨を構成する骨たちが皆同じ形と大きさであった様子

イ 背骨を構成する骨たちが規則正しく並んでいた様子

ウ 全体を構成する骨たちが緩やかな曲線を作っていた様子

エ 全体を構成する骨たちが人間の骨と同じように並んでいた様子

問い四、——線部②「月より大きい」という自分の発見」とありますが、「僕」はなぜシロナガスクジラが「月より大きい」と思ったのですか。本文中の言葉を使って答えなさい。

問い五、——線部③「そんな体を持って生まれる人生がどんなものなのか、僕には想像もできなかった」とありますが、「想像もできなかつた」とありますが、「想像もできなかつた」と述べながらも、「僕」はこの場面でシロナガスクジラの「人生」がどのようなものだと想像をしていますか。適切なものを次の中から全て選び、記号で答えなさい。

ア 自分自身ですら体の大きさを持て余してしまふ不自由な人生

イ 他の生き物をおびやかすような自己中心的な人生

ウ 自分の生き方を見失わず迷うことなくつき進む人生

エ 大きな体に見合わない生活を送るつましい人生

オ 他の生き物に生き物として認識すらされない孤独こどくな人生

問い六、本文中の空らん「 」AとDに入る言葉として適切なものを次の中からそれぞれ選び、記

号で答えなさい。ただし、同じ言葉は一度しか使えません。

ア もし イ おしろ ウ たぶん エ けっして オ ましてや

問い七、——線部④「心の中でも間違いなくシロナガスクジラは泳いでいる」とありますが、「僕」

の心の中でシロナガスクジラが泳いでいる様子が描かれている形式段落を探し、その段落のはじめの五字を答えなさい。

問い八、——線部⑤「心の中身をページに移動させようとする」とありますが、具体的に何をす

ことですか。二十字以内で答えなさい。

問い九、——線部⑥「そうやって僕なりに罪滅ぼしをする」とありますが、「僕」はどういうことを「罪」だと感じているのですか。それを説明した次の文の（ ）1・2に入れるのに適切な言葉をそれぞれ五字ずつ本文中からぬき出して答えなさい。

かわいそうなことを（ ）1）で表現することができず、リスト入りした彼らに（ ）2）を与えられないこと。

